

2012年 9月 10日 Vol.0065

「検察粛正」対談「検察に狙われた男たち」  
鈴木宗男 × 堀江貴文 × 三井環 ②

---

特捜部に狙われた男たち—自らの身に降りかかった無実を訴えるため、検察と戦い続ける3人が集まった。政治家、起業家、元検察官とそれぞれの肩書は違えど、目的はひとつ。まずは堀江氏と三井氏の二人で侃々諤々（かんかんがくがく）の議論が始まった—。

- 
- 法務省全体の調査活動費は減っていない
  - 政権交替で隠蔽された事実が出てきている

- 
- 法務省全体の調査活動費は減っていない■

三井：  
しかし宗男議員、法務省予算の調査活動費そのものは減っていないんですよ。検察庁だけですよね。

鈴木：  
ええ、検察庁の予算だけが8分の1になったと。

三井：  
そもそも調査活動費とは法務省全体の問題です。法務省の中には検察、公安調査庁、といろいろな部署があって、予算を分配する。だから（調査活動費の）検察予算だけが減っても法務省の予算自体は減っていないことになりますよね。

鈴木：

はい、減ってないと思います。

三井：

そうすると金が法務省の中でぐるぐる回っているんですよ。もしかしたら検察は何らかの形（予算の中から）バックをもらっているかもしれない。

堀江：

ああ、外からはわからない形で中でお金が回されている、と。

三井：

そう、検察への割り当ては減ったけど、法務省予算は減っていない。こんなおかしいでしょう。減った分はいったい、どこに行ったんだ。

堀江：

素朴な疑問なんですけど、そういった領収書の要らないお金って他にもありますよね。以前、河村（建夫）官房長官が辞めるときに問題になった2億5000万円ですか、ああいった官房機密費とか【2009年9月、麻生内閣が退陣する際、内閣官房報償費から2億5000万円を引き出していたとして、市民団体から川村氏は背任罪などで告発された。

鈴木：

本来は追及すべきなんです。今の鳩山内閣【鼎談収録は2010年3月24日】の責任でないんですから、引き継いだお金について、これは国民の税金です、これだけいただきましたよと明らかにして説明すればいいんです。でもやらない。私もずいぶん質問主意書を国会で出していますが、ダメですね。昨日（2010・3・23日）も鳩山首相が参議院の予算委員会で官房機密費は公開していく、いつまで遡るかはこれから検討すると言ったんです。首相が国民目線で明らかにしようとしたのに、翌日午前の官房長会見で明らかにしませんでしたと言った。総理がやると言ったのに官房長官が否定するなんて政治じゃないですよ。

堀江：

でも、機密費は領収書は出せないお金だからというのを隠れ蓑に裏金で使われていて、それを告発する人が出てきているのに、いまだになくならない。それは組織の機能不全なんじゃないですか。

三井：

1 番は、政治家とマスコミの責任。政治家はみんな検察が怖いんです。追及してくれるのは宗男議員他、ごくわずかです。やっぱり検察は怖いんですから。堀江さんはわかるでしょ。

堀江：

ははは、怖いですよ、よくわかります。僕も洗いざらいやられていますから。

鈴木：

私はやましいことはしていないという自信がありますから、検察にモノを言いますが、確かに政治家は検察を怖がっています。ただね、政治家がわれわれは国民の代表だ、という思いをもっと持たないとダメですねよ。国民から選ばれたのに、勇気と誇りを失っている。実際にここに、三井さんの生々しい(裏ガネの)告発があるんですからね。

三井：

だってね 堀江さん、犯罪が行われているのがわかっているながら、ひた隠しにされている。そんなこと許せますか？

堀江：

いえ、許せないですよ。

三井：

子供でも分かる道理ですよ。でも、国民の大半はそれ(裏ガネ)自体を知らないんです。検察べつたりの大手マスコミが報道しないからですよ。これがマスコミの責任といった意味です。

---

■政権交替で隠蔽された事実が出てきている■

鈴木：

三井さんが逮捕されたのが 2002 年 4 月 22 日です。10 日間の勾留、そしてさらに再勾留がきれるタイミングに合わせてうちの秘書を逮捕すべく検察は動いた。

堀江：  
何ですか。

鈴木：  
裏ガネを世間に情報公開しようとした三井さんの事件、言ってみれば検察の不祥事ですよ。検察は口封じのために三井さんを逮捕したが、それだけで動けば検察に話題が集中してしまう。それを避けるためにうちの秘書を捕まえに来たんです。それが4月の30日です。産経新聞記者の宮本雅文さんが著作「歪んだ正義」(角川文庫)の中で書いているのですが、三井さんの件である取材元に行ったそうです。将来の最高検の大幹部と目される男、私や三井さんは大体、誰だか予想が付きませんが(笑)、その人物いわく、「検察のことをあまり叩くと鈴木宗男の情報が入らなくなるぞ」と釘を刺されたそうです。宮本さんは検察の思い上がりをイヤと言うほど知った、と書いていますよ。

堀江：  
えげつないですね。でも、どうすれば裏ガネの問題を含めて、検察という組織を正常化できるでしょうか。

三井：  
まずは検察が裏ガネの問題を国民に謝罪するのが最初ですが、今、そんな自浄能力はないですよ。やり方は2つ千葉(景子)法務大臣が行政上の指揮を発動する。法務のトップとして裏ガネ問題を国民に謝罪しなさい、使った金を返しなさいと指揮を出すんです、もう1つは宗男議員がずいぶんやってくれていますが、私を法務委員会に参考人招致して裏ガネ問題をしゃべらす。そして検事総長を証人喚問する。その2つしかないんです。

堀江：  
あの時(裏ガネ告発をしようとした2002年)は結局、参考人招致をやらなかったんですね。

三井：  
私が逮捕されてしまったからやれなかった。私だけがいくら言っても駄目なんです。まずは国民に広く事実を知ってもらわないと、声を上げないと。

堀江：

なんか、この種の隠蔽されていた問題が連続して噴出していますよね。外務省の密約とか、なんでこのタイミングなんですか。

鈴木：

それは政権交代なんですよ。例えば(外務省の)密約問題でも、私は小泉、安倍、福田、麻生政権で 37 本も質問主意書を出したんですよ。答えは「ないものはない」の一辺倒。

堀江：

そんなものないんだ、と。

鈴木：

だから密約の存在が判明した今回の報告書では国民にウソをついていた責任は極めて重い、不正直だ、という記述になっていますよ。

堀江：

じゃあ、歴代の外務大臣はずっとウソをついてきたんだから、責任を問われないんですか。

鈴木：

外務大臣がウソをついた、というよりも役人の手のひらで踊らされていたと言った方がいいでしょう。ただ、結果として国民を欺いていたわけですから、謝罪しないとイケませんよ。こうした隠された問題が表出したのは政権交代が大きかったわけですが、法務省の裏ガネ問題についても該当するんです。

三井：

裏ガネも同じ、大ウソをついている。ただ検察は恐ろしいから誰も手をつけない。

堀江：

じゃあ、誰かちゃんとした人が法務委員長にならないとダメですね、それこそ鈴木さんとかが。

鈴木：

今の委員長は滝実(衆院議員／民主党常任幹事)。法務副大臣もやったしっ  
かり者ですよ。だから滝さんに言っています。国民への説明責任のため  
にも、三井さんを法務委員会に参考人で読んで事実を明らかにするのが立法  
府の責任ですよ、と。

三井：民主党の覚悟が問われていますよね。

(双葉新書 「権力」に操られる検察より 次号に続く)

---

著者：三井環（元大阪高検公安部長）